

地域デザイン、人材養成

24日から 筑波学院大が講座

筑波学院大学（つくば市吾妻、大島慎子学長）は、観光、都市デザインやコミユニケーションなどの分野で起業し、活躍する人材養成を目指す「地域デザイン学芸員資格講座」を開講する。



同大は、大学における社会人や企業などのニーズに応じた人材養成を目指す、2017年度文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定を受けた。具体的には、新しい観光を創造、起業する学生や観光資源開発に取り組む社会人を対象にした学び直しの人材養成講座。

1講座は15時間の編成で、来年2月上旬までの約6カ月間に9講座を設定するなど、社会人が受講しやすいように工夫している。牛久市を舞台にした講座構成になっているのが特徴だ。受講する社会人らに同大生も加わり、同市の地域文化資源などをフィールドワークしながら学び、地域の魅力を世界へ発進する力を育む。

第1回講座は24日から、同市牛久町のエスカード牛久などでスタートする。講師は塚原正彦同大教授らが務める。本格開講の前に、同市柏田町の市中央生涯学習センターで7日、塚原教授がコーディネーターを務め、受講予定者など約20人が参加してキックオフセミナー「牛久の未来をデザインする」を開催する。市柏田町

みんなのミュージアムをつくらう！」を開催。参加者らは、同市の豊かな地域資源を使った取り組みを探究した。

同講座への問い合わせは、筑波学院大学ミュージアム研究所 ☎029（858）4811。

（久保浩）